



仕 様

二酸化炭素検知管

測定範囲 1 ~ 20 %

試料採取量 100ml^{注4)}

測定時間 8分間

検知限度 0.2 %

色の变化 桃色 黄色

反応原理 二酸化炭素検知管：

アルカリと反応して示薬が変色する。



酸素検知管：

アルカリ性ピロガロールと反応する。

有効期限 1.5年

経年変化 変色層の境界が不明瞭になり、指示が高くなる。

使用温度範囲 10 ~ 40 (二酸化炭素検知管は温度の影響なし、酸素検知管は温度補正あり)

湿度の影響 なし

校正方法 高圧ガス容器詰め標準ガス

酸素検知管

測定範囲 2 ~ 10 %

検知限度 0.1 %

色の变化 白色 褐色

他のガスの影響

通常の燃焼排ガスは、二酸化炭素検知管、酸素検知管共に他のガスの影響はない。

注1) 二酸化炭素は、酸素は相互に影響をあたえるので真の濃度は次式により補正して求める。

$$\text{CO}_2 \% = (\text{CO}_2) - \frac{(\text{O}_2) \times (\text{CO}_2)}{100}$$

$$\text{O}_2 \% = (\text{O}_2) - \frac{(\text{O}_2) \times (\text{CO}_2)}{100}$$

(CO₂): 二酸化炭素読取り値(%)(O₂): 酸素温度補正值(%)

注2) 二酸化炭素検知管は単独で使うことができ(この場合、酸素による補正は必要ない)、酸素検知管は単独では使えない。

注3) 酸素検知管は使用直前に示温剤の部分をマッチ等で色が変わるまで(赤色 紫色)過熱して使用する。

注4) 測定ガスが高濃度の場合、検知管に吸引される量が150ml以上になる